

■ 専門科目

環境・空間

都市環境デザイン論

後期・選択・2単位

Theory of Urban Environments Design

担当教員 山之内誠、小浦久子

授業の目的と到達目標（学修成果）

地図や地誌類、統計データ等にもとづく都市情報の分析手法を学び、都市及びその周縁の空間の成り立ちを総合的に理解する力をつける。

授業計画の概要

グローバル化が進む一方で、空間の固有性を継承強化する持続可能な都市のあり方が問われている。そのためには、デザインやプランニングのよりどころとして、自然環境、歴史、生活、文化から空間の成り立ちを把握し分析するとともに、その固有性（地域らしさ）を読み解く必要がある。ここでは、神戸市内の都市部や農村集落など、スケールや成立背景の異なるフィールドを設定し、講義と実践を通して、都市及びその周縁地域の特徴を読み解く視点と手法を学ぶ。

環境・空間モデリング論

2024年度開講・選択・2単位

Environmental Modeling

担当教員 萩原廣高

授業の目的と到達目標（学修成果）

授業の目的：人間を取り巻く自然環境や都市環境、社会環境は、地球規模の気候変動や人間の活動などの影響を受けながら刻々と変化を続けている。アートやデザインという行為は、それらの環境に対して何らかの働きかけを行なう行為であり、その成果として、変化の中で生じる環境と人間との不調和を緩和し、人々の暮らしを豊かなものにする。その為には、働きかけの対象となる環境・空間の特性および状態を把握、分析できる科学的な技術が求められる。ここでは、計測機器やコンピュータなどを利用することによって、不可視な事象も含めた「環境・空間の科学的モデリング技術」を習得することを目的とする。

到達目標：

- ・コンピュータを用いた科学的モデリング技術の理論を理解し、実施できる
- ・モデリングの経過や結果について、合理的に説明することができる
- ・実践的なケースを想定し、モデリング技術を応用させることができる

授業計画の概要

普段見慣れた風景や地図情報等で既知の場所などを対象として、自然環境・都市環境・社会環境の事象について、抽象化された概念・図式モデルや数値解析による可視化を行なう能力を身につける。

地図情報システムや数値解析モデルに関する理論を学び、一連の技術を習得するほか、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、その経緯や結果を合理的な説明にまとめる。また、実践的な応用例やその方法についても修する機会を得る。

地域再生デザイン

2024年度開講・選択・2単位

Regional Renovation Design

担当教員 長濱伸貴

履修制限等

環境・空間デザインについて、深い関心と基礎的な知識を有していること。

授業の目的と到達目標（学修成果）

地域再生における今日的な課題を深く理解することにより、社会的、公益的な視点を持ちながら未来を見据えた環境デザインを行う能力を身につける。

授業計画の概要

持続可能な地域社会の再構築に向けて、ライフスタイルとその場所の新しいあり方としての地域空間再生計画を提案する。主にアーバンデザイン、ランドスケープデザイン、建築デザインを中心とする芸術工学分野の学際的課題として捉え、その実現に向けて、都市環境から建築空間までの空間スケールにわたって、自然環境・社会環境とデザインコンセプトとの関係、デザインプロセスの構築などについて考察する。学生相互のディスカッション、グループによるフィールドリサーチ、現地ワークショップ等を通して、具体的な提案を授業の成果物としてとりまとめる。

建築空間デザイン

前期・選択・4単位

Architectural Space Design

担当教員 畑友洋、萬田隆、三上晴久、川北健雄

授業の目的と到達目標（学修成果）

- ・単体の建物の設計に留まらず、周囲の環境や敷地条件を読み取った上での総合的なコンセプトメイキング、空間の創造を行うことができる。
- ・具体的課題において構造や環境・設備の計画も並行することにより実践的な設計を行うことができる。

授業計画の概要

建築やリノベーションの計画デザインを実践的に学ぶ。具体的提案を求める計画地を設定し、その計画地が位置する地域の調査にもとづき歴史、景観、安全、相隣環境など計画地に求められる計画条件を把握するとともに、企画コンセプトの立案からデザインプロセスを実践的に学ぶことにより、計画設計実務に求められる基本を習得する。